

内科 小児科 漢方
産科 婦人科
浮田医院
だより



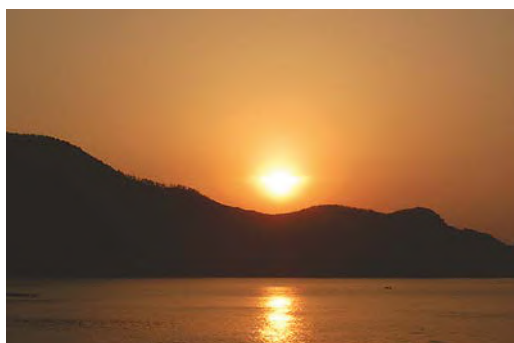
第 80 号
医療法人 せいらぎ会
発行所：浮田医院
〒520-1214 滋賀県高島市安曇川町末広3丁目28
TEL 0740-32-3751
FAX 0740-32-3795
ホームページ：<http://www.ukita.gr.jp>
e-mail: kanpou@ukita.gr.jp
発行日：2008年12月5日(金)
発行者：浮田 徹也



漢方薬のよさ(80)
糖尿病Ⅲ

もう一ヶ月で今年も終わりです。振り返ってみると早いものです。当院は基本を大切にしています。うっかりして基本を忘れそうになりますが、絶えずゼロ(基本)に戻って考える、行動することを心がけています。看護学生や滋賀医科大学の実習は当院にとっても基本を再認識するよい機会でした。各種学会や研修会も同様に私たちに啓蒙を發します。院内の感染委員会や安全管理委員会で反省会を絶えず開いてきました。このように基本を忘れない工夫を来年も勿論続けていく予定です。美しい紅葉も終り、木々は冬支度、春を目指して準備し始めています。私たちも、この一年を振り返って、春を目指して準備を始めています。

糖尿病 I のお話です。
糖尿病は「インスリン作用不足に基づく慢性の高血糖状態を主徴とする代謝性疾患」です。



夕日(敦賀市)



曲直瀬道三

とする代謝性疾患」です。空腹時血糖値が一六〇以上が随時血糖値が二〇〇以上を糖尿病と診断します。日本人はインスリン分泌能が小さい人が多く、わずかな内臓脂肪増加でもインスリン作用障害(抵抗性)が起りやすいので運動不足、脂肪過剰摂取、過体重、

遅い食事時間などの生活習慣が影響します。進行すると、口渇、多尿、多飲、体重減少などの症状を自覚するようになり、網膜、腎、末梢神経などに細小血管の異常を主とする糖尿病特有の合併症が出現します。また、全身の動脈硬化が促進され。心筋梗塞、脳梗塞、下肢閉塞性動脈硬化症の原因になります。治療は食事と運動が基本療法です。体重(内臓脂肪)は食事と運動によく反応して減少します。それでも改善しない場合は、経口血糖降下薬やインスリン注射で治療します。糖尿病の症状を改善するには漢方薬も有効です。

では実例に移ります。

七十三歳女性、一五三cm、五十九kg、**糖尿病**、左下肢痛、肩こり、腰痛、便秘にて来院。顔色は普通、腹部は軟らかく、胸脇苦満、心下痞硬、臍上悸、両側臍傍抵抗と圧痛、臍下不仁を認める。脈は沈、細、滑、舌は、暗紫紅色、薄黄苔、乾燥、舌下静脈怒張。空腹時血糖値一八〇、食後血糖値二八〇、ヘモグロビンA1c八・八。そこで、疎経活血湯、オイグルコン、ベイスンを処方。三ヶ月後、左下肢痛改善。空腹時





血糖値一三〇、食後血糖値二〇〇、ヘモグロビンA1c8.0。そこで、オイグルボン、アクトスと乾地黄、芍薬、陳皮、沢瀉、茯苓、蒼朮、白朮、甘草とを併用。一年後の現在、空腹時血糖値一一〇、食後血糖値一八〇、ヘモグロビンA1c6.3。現在も継続中。

二十五歳女性、一六〇cm、五三kg、感冒（妊娠十五週）、三日前より咽痛と咳嗽（悪風（一）、発熱（一））、食欲良好、関節痛（一）。顔色良好、脈は浮緊数、腹は弾力がある。舌は、淡紅色、薄白苔。そこで、麦門冬湯加桔梗石膏を処方（三日分）。三日後には治癒。

三十七歳女性、**心臓神経症**、特に誘因なく、動悸、不安感、冷や汗、のぼせ、倦怠感が出現。顔色良好、

お腹は柔らかく、胸脇苦満、心下痞硬、臍上悸、臍旁圧痛と抵抗、臍下悸を認める。脈は浮弦滑数。貧血（一）、心電図の異常（一）。一ヶ月後、症状軽減。三ヶ月後、一回発作があつたが、すぐに消失。六ヶ月後、発作消失。二年後の現在、一ヶ月分を三ヶ月で服用中。

五十八歳女性、一五三cm、四十五kg、**冷え性**（一一〇〜六〇）、腰痛、倦怠感、便秘を訴えて来院。顔は青白くむくみ、腹は軟弱無力、心下痞硬、臍上下悸、下腹部は膨満して軟弱。脈は沈遅弱。舌は淡白色、薄白苔。そこで、四逆湯を処方。一ヶ月後、手足の冷え軽減。六ヶ月後、腰痛、便秘、倦怠感も改善。更に、足湯を併用して足の冷えが消失。現在も漢方薬を継続中。今回は、**神経痛 II**です。今年も皆様には大変お世話になりました。来年もよろしく願います。



〔院長〕



感冒

「自然に汗がでているかどうか」「悪寒があるか」「熱くないか」「発熱はどうか」「喉の痛みはあるか」「胃腸症状があるか？吐き気、下痢があるか」「倦怠感が強くないか」などを参考にして、抗体産生能力、体力の予備能、胃腸機能などを推測しながら、脈の変化、舌の変化を参考にして漢方薬を処方します。そのため、問診、脈診、舌診、時に腹診をして処方しています。



心臓神経症

特別のストレス下でないのに、突然、不安や恐怖に襲われ、動悸、息切れ、呼吸困難、めまい、身震い、発汗、吐き気、痺れ、前胸部痛、疲労を自覚する病気で、30～40歳の女性に多く見られます。心臓に器質的疾患（狭心症など）があるかどうか、心電図、胸部写真、血液・尿検査などで調べます。心と体の治療が必要なので、東洋医学的な考え方も必要です。



冷え性

手・足・背・腰など体の一部の冷え、冷えのぼせ（足は冷え、顔はのぼせる）、全身の冷えなどがあり、漢方医学では、血（循環不全）、気虚（気力低下）、水毒（体液の偏在）、血虚（血液不足）、脾虚（胃腸虚弱）、陰証（新陳代謝の低下）などが原因と考えられています。血液検査なども参考にして四診（問診、視診、触診、聞診）を基に、漢方薬を処方します。



当院の漢方治療



剤型

- ・エキス漢方薬：錠剤**タイプ**の漢方薬と顆粒**タイプ**の漢方薬があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。**40～60分煮**で作ります。
当院の**顆粒タイプ**の漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、**しっかりと蓋**をして下さい。それでも固まる場合、**冷蔵庫(冷凍庫)で保管**して下さい。
漢方薬が固まりやすい場合、当院の**漢方薬専用容器**(無料)をご利用下さい。

適応症

- 便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害・・・などすべての症状。
- ・漢方薬のよく効く疾患
アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、下痢、動悸、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性膀胱炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫流産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病・・・
- ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患
高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用・・・

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症 ・ 程度の病氣：漢方製剤(顆粒あるいは錠剤)を組み合わせで治療。
- ・重症の病氣、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰、膣分泌物、心電図、骨量測定・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

骨量測定(4～6ヶ月ごと)

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡しします。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

予約ー漢方外来

土曜日の午後、予約-漢方外来があります(予約制、2回/月)。日程は掲示板やホームページでご確認ください。(電話予約可)

アトピー軟膏 健康食品

漢方薬(生薬)のみで作られた軟膏です。

- ・紫雲膏 ・ 太乙膏 ・ アガリクス
- ・メシマコブ ・ 靈芝 ・ AHC ・ サメ軟骨

漢方入浴剤

- ・美芳湯：冷え症、湿疹、あせも、にきび・・・
- ・昇竜湯：腰痛、肩こり、神経痛、疲労回復・・・
- ・アトピーの方の漢方入浴剤もお作りします。

健康保険証の確認

保険証は**毎月確認**することになっています。保険が使えなくなると困りますから、**保険証の変更**は、早急に受付に連絡して下さい。

在宅療養の支援とは

患者さんあるいはその家族の人と相談のうえ、その家族を訪問し、**計画的に診療と治療**を行います。往診と違い、定期的に(月に2～計画的に診療と治療を行います。往診と違い、定期的に(月に2～計画的に診療と治療を行います。往診と違い、定期的に(月に2～12回)訪問診療を行い、患者さんの健康を管理します。
在宅療養の支援についてお気軽にご相談下さい。

皮内針、針管付き鍼

皮内針の長さは1～2mm、針管付き鍼の長さは30mm、いずれの鍼も刺す時の痛みはありません。肩こり、膝関節痛、腰痛、足の痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に適しています。

処置診(処置、検査、点滴、鍼、スーパーライザー)

診察券を入れ**受診者名簿**に、氏名を書き、**処置の欄**にチェックして下さい。

外来休診日のお知らせ

外来診察は、12月31日(水)～1月4日(日)の間、お休みします。お産や急患はこのかぎりではありません。

外 来 診 療 時 間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午	○	○	○	○	○	○	—
正午～午後0時30分	—	—	産後健診(予約可)	—	産後健診(予約可)	—	—
午後2:00～午後3:30	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	産後相談(予約)(有料) 母乳相談(予約)(有料)	予約-漢方外来 (月2回)	—
午後2:00～午後4:00	在宅訪問診療 (手術)		在宅訪問診療 (手術)		在宅訪問診療	—	—
午後5:30～午後7:30	○	—	○	—	○	—	—

- ◇漢方外来(月～土):内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科の漢方薬による治療。
 ◇予約-漢方外来(2回/月 土曜日):午後2時～2時20分、2時20分～40分、2時40分～3時、3時～20分、3時20分～40分
 3時40分～4時 (電話予約可、日程はホームページ、掲示板参照)
 ◇更年期外来(月～土曜日):更年期の方、思春期の方(女性、男性 どなたでもお越し下さい)
 ◇不妊 外来(月～土曜日):赤ちゃんの欲しい方(ご夫婦でもお越しになれます)
 ◇妊婦 外来(月～土曜日):妊婦健診、妊娠中の方
 ◇産後 健診(水、金曜日)(有料):正午～午後0時30分 赤ちゃん健診(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月)も(電話予約可)
 ◇産後 相談(月～金曜日)(有料):午後2時～30分、2時30分～3時、3時～30分 産後の悩み (電話予約可)
 ◇母乳 相談(月～金曜日)(有料):午後2時～30分、2時30分～3時、3時～30分 乳房マッサージ (電話予約可)

前期と中期-母親教室

日時:平成21年1月10日、2月7日の各土曜日

対象:妊娠7ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

場所:本院別棟 多目的ルーム 申込方法:申込ノートでご予約をお願いします。*ご主人様もお気軽にご参加下さい。
 立会い分娩ご希望の方は 特にご参加をお勧めします。(申し込みノートにお名前記入をお願いします)

後 期 - 母 親 教 室

日時:平成20年12月10日(水)、20日(土)

平成21年1月7日(水)、17日(土)、28日(水)

対象:妊娠8～10ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

母親教室のお知らせ

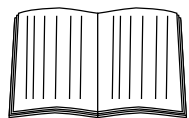
母親教室では、「母と子のてびき」にそって、お話をすすめています。参加時には
 母子手帳とともに、忘れずにお持ち下さい。

(「母と子のてびき」は、分娩予約時に受付でお渡ししています。)



曲直瀬道三(まなせどうさん)

曲直瀬道三は「日本医学中興の祖」と称され、室町末年から安土桃山に活躍した最も著明な医師である。
 1531年より、関東足利学校で田代三喜に学び、1545年、京都で啓迪院を創建すると共に、足利
 義輝、毛利元就、織田信長、豊臣秀吉、千利休らの信任を得ていた。道三の執筆した「啓迪集」は金元医学
 の集約と言うべきで、田代三喜が明より初めて持ち帰った李朱医学を広める役割を果たし、子の玄朔
 をはじめ、代々官医として続いた。著書に「薬性能毒」「百腹図説」「正心集」「弁証配剤医灯」などがある。



分娩予約

妊娠30週までに受付で予約して下さい。ご予約には、
 分娩予約カードと予約金10万円が必要です。予約
 された方には、母と子のてびきをお渡します。

漢方のお茶(清暑益気湯(せいしょえっきとう)加減)

疲労回復にもってこいのお茶です。ちょっと疲れ気味
 の方はお試しください。妊娠中の方も飲みください。

パソコンホームページ(<http://www.ukita.gr.jp/>)

トップページ(お知らせの欄、診療日程カレンダー)
 産婦人科のページ(入院、食事、各種教室、指導)
 漢方治療のページ(外来、漢方治療の範囲)
 老人医療のページ(在宅療養の支援)
 健康のページ(健診、ブライダルチェック、予防接種)
 当院の施設案内、当院への交通(車、JR)

産後相談 母乳相談 (助産師)

母乳相談(有料)(乳房マッサージ)をしています。(電話予約可)
 日程は掲示板やホームページでお確かめください。

正常分娩の入院日数

正常分娩の場合入院日を含めて入院期間は6日間です。
 初産婦の方、経産婦の方も同じ入院日数です。
 分娩希望の方はすべて受け付けています。

里帰り出産を予定されている方へ

当院は里帰り出産を受け付けています。妊娠24週ごろ(母体
 と赤ちゃんの状態をチェックします)に1度診察においでく
 ださい。当院での妊婦健診は妊娠34週から受けてください。

産後健診と赤ちゃん健診

産後健診と1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。
 日時:毎週水、金曜日 正午～午後0時30分(有料)

お屠蘇

延寿屠蘇散と言い、中国の華佗が邪気を屠り、魂を蘇らせる
 ように考案し、日本に平安時代に伝来。宮中行事から民間に
 広がり、江戸時代に曲直瀬玄朔の工夫で完成しました(無料)。

産科医療補償制度

分娩により重度の脳性麻痺となった児及びその
 家族の経済的負担を補償し、原因分析と再発
 防止策を講ずるための制度。当院でお産される
 方に、10月より登録証を発行する予定です(妊
 娠5ヶ月ごろ)。詳細は受付でお聞きください。